

## 2025 年度の事業計画について

2025 年 3 月 9 日の理事会において、2025 年度の事業計画が承認されました。大きな変更がありますので、この場を借りて会員の皆様にご報告申し上げます。

下記表 1 にあります通り、これまで実施してきた事業の一部を、延期・実施内容変更・凍結（当面中止）・廃止させていただきます。赤字化した予算の立て直しが一番大きな理由です。

表 1 2025 年度の大きな事業計画変更

	事業	対応	備考
1	大学における心理学教育調査	延期	2026 年度以降の実施を検討
2	高校生のための心理学講座（対面）	実施内容変更	予算配分を凍結し、各大学で主催する高校生講座への名義共催とする。将来、方針を再検討。なお、YouTube によるオンライン配信は継続。
3	研究会制度（研究集会等助成）	実施内容変更	制度を維持しつつも助成金支給を凍結。将来、方針を再検討
4	国際会議参加者への旅費補助	凍結	将来、方針を再検討
5	「減災並びに災害からの復興に寄与する研究・活動」の募集	凍結	将来、方針を再検討
6	優秀論文賞受賞論文の副賞（賞金）	凍結	将来、方針を再検討 賞状・記念品は継続
7	シチズン・サイコロジスト奨励賞受賞者の賞金	凍結	将来、方針を再検討 賞状・記念品は継続
8	国際賞受賞者の賞金	廃止	賞状・記念品は継続
9	大会発表論文集冊子体の刊行	廃止	confit による閲覧で代替

日本心理学会は、公益社団法人として、心理学ワールド、並びに社会に貢献してきました。内閣府より公益社団法人に課せられた、収支相償（黒字を出さない）の原則に則り、支出に対する収入の超過分を全て会員の皆様による学術活動の助成等に充ててきました。また、会員数の増大、認定心理士取得希望者数の増大に伴う収入の向上に合わせて事業規模を拡大してきました。

しかし、コロナ禍によって会員数の増加が減速し、認定心理士の認定件数が激減したことにより、収入が大幅に低下しました。コロナ禍が明けて収入は快方に向かいつつありますが、拡大した事業を賄えるまでは回復していません。

そのため、2023年度は300万円の赤字が生じるに至りました。2024年度については決算処理中のため、まだ収支差額をお示しすることはできませんが、同年度予算では1000万円の赤字を見込んでいました。

これまでも、大会におけるプレコンベンション学術交流会を中止して会場費を抑える、総会・委員会等の各会議をウェブ会議で開催して出席者の旅費を節約する、会費の支払いをJPASS経由で電子的に行っていただくことで郵送コストをなくすなど、様々な努力を行ってきましたが、それでも赤字は止まりませんでした。

このままでは学会の存続が危うくなりかねません。そこで、2025年の事業計画を見直し、支出を切り詰めて、赤字見込みを約800万円まで縮減させていただくことにしました。

具体的には、表1に挙げた事業について、やり方を変え、予算を削減させていただくことにしました。延期や実施内容変更、あるいは凍結の事業については、予算の状況が好転したのち、旧に復することを検討させていただきます。廃止の事業は、規程・規則等を改訂し、原則的に見直さないことを想定しています。例えば「9.大会発表論文集冊子体」は、購入数が減り、発刊する意味が希薄になってきました。そして、制作費が販売価格を大きく上回る状況になっています。参加いただいた皆様には、confitで無料閲覧をしていただければと思います。また大会終了後にはJ-Stageにて一般公開する予定です。6-8の受賞者への賞金については、受賞の意義に鑑みて賞金は不要と判断し、凍結・廃止させていただくこととしました。

会員の皆様の経済的負担を増加することなく財政状況を好転させ、活動を維持し、将来さらに発展させるために、このような予算縮減措置をさせていただくこと、ご寛恕願います。ご理解の程、どうぞよろしくお願い申し上げます。

公益社団法人日本心理学会理事長 阿部恒之